

【魚津税務署長賞】

「税金の使い方」

富山県立滑川高等学校一年 黒田 奈那

私は、歯が痛いと言った歯医者で治療をしてもらいに行きます。小学生の頃、なぜ私は歯医者でお金を払わなくていいのか不思議に思い、母に「税金で支えられているからだよ」と教えてもらいました。歯医者では、歯の治療だけでなく、フッ素をしてもらったり歯みがきのアドバイスをもらったりし、安心して家に帰ることができました。もし自分で全額を払わなければ、歯医者に行かず悪化したり、歯の痛みを我慢したりしていたかもしれません。この経験から、税金は私たちの健康や生活を守るための欠かせないものだと感じました。

特に、高校生になっても、病院代が無料なのは本当にありがたいです。体調を崩したときやけがをしたときに病院に行けるのは当たり前のように思っていました。しかし、実際には診察や薬の費用は大きく、そのほとんどを税金に出してもらっています。安心して病院に行けるのは当たり前ではなく、とても感謝しています。さらに税金は、学校の教科書や道路、警察など国民の生活を支える様々なところで使われています。こうして身近な生活や社会全体を守ってくれているのだと考ええると税の大切さを改めて感じました。

最近、日本の税金が海外にも多く使われていることを知りました。最初はなぜ日本のお金を海外に使うのか不思議に思いましたが、災害で困っている国を助けたり、ワクチンを届けたりするためだと分かりました。地震で家を失った子どもたちに学校を作る支援なども行われていると知り、税金の使い道の広さに驚きました。日本が困った時に海外から支援を受けることもあり、助け合う関係が大切だと感じました。税金は病院や学校など身近な生活を守るだけでなく、遠くの国の人々の命や生活も支えています。みんなが頑張って納めた税金だからこそ、ちゃんと必要なことに使われてほしいと思います。私たちは、たくさんの税金に支えられていることを忘れず、税金を払うことをマイナスにとらえず、大切な仕組みだと理解し、責任を持って税金を払い続けます。